

長浜市立 湖北病院だより

〒529-0493
長浜市木之本町黒田1221
TEL 0749-82-3315
発行 湖北病院広報委員会
ホームページアドレス
<http://www.ikbk.jp>



医療従事者および医療従事者をを目指す学生の研修を実施しています

当院は、将来の医療を担う研修医の先生や医療従事者をを目指す学生を対象として、地域に根差した医療現場を見ていただけるよう、地域医療研修の受け入れを行っております。

今年度は、大津市民病院から2名の研修医の先生が、当院での地域医療研修を希望してくれました。新型コロナウイルス感染者が少ない時期でしたので、例年のへき地の医療の研修に加え、リハビリ医を目指している上田先生には訪問リハビリを、救急医を目指している岡田先生には消防署での研修を受けていただきました。研修の感想の一部を抜粋して紹介します。

上田先生

巡回診療や訪問診療、老人ホームまで様々な場所での診療をみることで、地域医療の現状やシステムを理解することができました。印象に残っているのは地域ならではの小さなコミュニティでのコミュニケーションで、巡回診療では患者さんから兄弟や家族のことが話題になり、待合室は談話室のようで、普段勤務している病院では経験しないことでした。高齢の方も多く、巡回診療の際に周りの方と関わることで認知症予防にも寄与していると思われ、孤独感も多少減るのではと感じました。地域病院のリハビリや訪問リハビリについても学びましたが、スタッフの方々は快く教えてくださいました。訪問リハビリテーションでは、急性期の病院で診ている特定の疾患の方が在宅に戻られどのように生活しているか知る貴重な経験となりました。訪問で訪れている理学療法士さんは、その患者さんのリハビリに関わるだけでなく処方内容に関しても意見を持っておられ、スタッフ間の意見交換の大切さを再認識しました。リハビリではほめることが大事というお話もお聞きし、本人の意思で頑張らないといけない部分も大きいので、その気持ちをいかに引き出して上げられるか、自分自身も学ばなければならないと痛感しました。



巡回診療所研修中の上田先生と訪問リハビリ先で遭遇したお猿さん

岡田先生

私は救急や集中治療に興味があり、重篤な患者さんを担当する時に上級医の先生が患者さんの転期を想定してどこまで治療を行うかみてきました。しかし、患者さんのその後の様子を実際にみる機会がなく、救命は出来ても挿管や気切などの処置が妥当だったのか分からずにいました。今回の実習ではそのような患者さんが退院されてご自宅に戻られた後や療養型病院に転院された後の様子を見学する機会があり、勉強になりました。訪問診療の際には、ご自宅やご家族の様子を実際にみることで、ひとりひとりの患者さんに生活があることを実感しました。普段の診療では十分に考えられておらず、それぞれの背景をもっと尊重するべきだと感じました。また、どのような生活状況かを知ることは、その方に必要な医療を考える上で重要であると思いました。巡回診療では、まずこのような診療の方法があることに驚きました。病院や訪問診療しか見たことがなかったので、その中間の効率的な仕組みであると同時に、集まった地域の皆さんの交流の場の一つでもあったと感じました。長浜消防署ではこの地域ならではの救急システムを知ることができました。通報時点である程度病院が決まっていると、病院側も受け入れの準備をすることができること、スムーズに搬送出来るなどメリットが大きいシステムだと思いました。



訪問診療研修中の岡田先生と消防署研修（左：通信指令室、右：特別災害対応車）

湖北病院は、へき地拠点病院に指定されており、病院診療に加え、へき地ならではの巡回診療をはじめ、サービスを届けにくい地域への訪問診療やへき地に立地した介護施設への支援を併せて行っています。研修にご協力いただいたスタッフや関係者および地域の皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。将来を担う若手医師の育成に、今後ともご協力のほどお願いいたします。

地域医療研修担当 東野克巳・久田祥雄